

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第56号 2023年1月

NPOの活動紹介・・・中西由美子
コロナ禍によって変わったこと、変わらないこと・・・富川昌美
我が家の環境への取り組み・・・若林高子



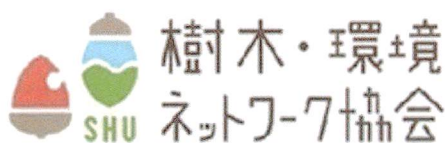
玉川上水の12月の花 左からサザンカ、ツバキ、ムラサキシキブ(実)、ワビスケ、ヤツデ 撮影:川真田直之

NPOの活動紹介

中西 由美子

私は「樹木・環境ネットワーク協会」というNPOの事務局に所属しています。今回は、このNPOがどんな活動をしているかご紹介いたします。

このNPOは名称が長いため、「^{しゅう}聚」という愛称で呼ばれています。「聚」とは「集」という字の旧字体で、集まるという意味です。以降、「聚」と書くことにします。



1992年の地球サミット後は、世の中は環境問題に関心が向き、さまざまな市民活動が起こった時代でもありました。そんな時代背景の中、聚は1995年に任意団体として発足し、2000年に特定非営利活動法人の認証を取得しました。

聚の理念は「人と自然が調和する持続可能な社会を目指すこと」です。自然と触れ合い、自然をよく知り、それをもとに自分たちの生き方を見つめ直すことです。具体的な活動としては、里山保全活動や自然体験の推進、環境教育やそれにかかわる人材育成などです。

その活動の考え方の源泉となっているのがグリーンセイバーという検定の知識体系です。そこには植物や自然生態系の基本的な知識や、植物と人の生活との関わり、歴史の知識が幅広く盛り込まれています。こうした知識を身に付けたうえで活動に臨んでもらいたいというねらいがあって、聚によって創設された検定制度です。

聚では、こうして誕生したグリーンセイバーの資格取得者が会員の多数を占めており、多くの活動に参加しておられます。関東と関西を中心に公園や里山の活動フィールドがあり、定期的に保全活動が行われています。こうしたフィールドでは企業からCSR活動・ボランティア活動をさせてほしい、社員研修をさせてほしいという問合せがきます。里山では、一般の人や企業、学校などにも里山林の存続のために間伐やササ刈り、竹林の整備などに参加してもらい、社会全体でこうした環境を継承していくことを目指しています。

また、自然環境に深く親しみ、自然の仕組みを理解するための観察会や体験プログラムを提供することも聚の主な活動の一つです。こうした自然観察会を一般向けに企画・運営するグループも聚の中にあります(次ページ写真)。



里山保全活動の研修

私は20年ほど前に、先述のグリーンセイバーの資格を取得し、仕事をしながら自然観察会の活動に参加していました。最初は会員にすらなっていませんでしたが、いろいろと頼まれることが多くなり、会社に勤めながら聚の事業を一部担うようになりました。そして8年前に事務局員に加わりました。事務局には常勤・非常勤の職員がいて、たくさんの事業を回しています。



里山での休憩風景

コロナ禍によって変わったこと、変わらないこと

富川 昌美

3年に及ぶコロナ禍・休眠期間を経て、社会の活動も漸くエンジンがかかり始めました。私が所属する「むさしの・こどもエコフォーラム」も「放課後学習・あそべえ」と「善福寺公園・野外学習」を除いた「出前授業」「イベントへの参加」「地域のこども教室」はほぼコロナ以前の形に復帰しつつあります。

令和4年度は武蔵野市の企画事業・「サイエンスフェスタ」も参加人員の制限はありますが漸く復帰しました。「学童に対する環境教育」という私たちの活動が、コロナ禍によってどのような影響を受けたのかを2件を例示し今後の参考になればと思います。私たちの活動の基幹は本物を使うことで、「子どもたちの感性に訴え、教科書や印刷物では感得できない本物の持つインパクトを体得させ」、「自然の不思議、命の大切さ」を考えさせるところにあります。



子供達と会話をしながらレプリカ作りを指導

しかしこの作業は子どもたち同士、講師と子どもたちとの体の触れ合いがあって達成されるもので、「三密回避」の制限の下では子どもたちが額を寄せ集まって体験することが困難でした。

出前授業でも「ソーシャルディスタンス」を保つために教室の机の配置を変え、実験ではマスク・フェイスシールドの着装が求められました。

1. 出前授業（4年生社会科）

この授業の講師は私が現役時代関係していた「プラスチック循環利用協会」から数名来ていただき、プラスチックのリサイクルについて学習するものです。昨年から教壇の上に小型の射出成型機を据えて実際に成型するという画期的な試みが始まりました。しかし子どもたちが大勢密集して観察することを避けるため「カメラで撮影し、白板に投影する」という方法を取りましたが、この方法はポストコロナでも使えることが分かり他の多くの場面で使える成果を収めました。

2. サイエンスフェスタ

今回（11月3日）のサイエンスフェスタで行った「化石レプリカ作り」というワークショップは、元来、関前南小学校の「科学クラブ」で、寺木秀一、藤井卓、泉浩二、前田研二郎さんらの指導・協力によって練り上げたもので、1回20～30人の子どもたちを囲い込んで、講師がパネルや標本を使って説明し、石膏のレプリカを作る（これを3回繰り返すバッチ式）ものです。

今回は入場者・スタッフの人数制限があるため、寺木さんの提案で流れ作業方式（連続式）にしました。講師1人に子ども2人の組み合わせで、次々にレプリカ作りに挑戦させるというスタイルで、これまでのような資料や標本を使った説明はできませんが、講師が子どもたちの興味・理解度に合わせて説明しながらワークするところがユニークで、保護者も一緒に学習し製作を楽しめる点で大きな進歩でした。意外にも参加者の数も増え「費用対効果」も上がったようです。勿論そのためには教材造りに周到な準備が必要でした。

私たちの活動は「地域に密着して」「遊びを学習に、学びを遊びに」変えるところにあります。設立して15年、参加した子どもの数は2千人を超えました。随分汗をかきましたが「継続は力」のとおり、今では市長・教育長、学校長の理解と協力を得て（設立以来、教育長は3人、学校長は4人異動されました）コロナ禍を無事に乗り切れそうです。

毎年学習の内容を改善しているのが自慢ですがこれからもMECCからの応援を強く期待しています。

我が家の環境への取組み

若林 高子

●太陽光発電

2003年6月、わが家（東京都小金井市）のリフォームを機に太陽光発電を導入しました。その後、2013年に共同住宅（同じ敷地内）を建替えた際には、共有部分に太陽光発電を設置しました。いずれもパナソニック製です。



自宅は赤い屋根、共同住宅は黒い屋根

毎日、太陽光発電システムモニターを見ていますが、曇天でも日暮れまではちゃんと発電しているので、お日さまが照る限り、太陽光発電を存続させていきたいと思います。余剰電力売電による我が家への経済効果は、東電の買取金額次第ですが。

地球温暖化の原因とされるCO2、そのCO2排出抑制する自然エネルギーに関し、導入当時のパンフレットには「原子力43.6%、火力49.1%、水力7.0%。自然エネルギーの開発・普及をすすめ、一層のCO2排出抑制につなげたい」とありましたが、その後、太陽光発電はどの位、普及したのでしょうか。

10年前の東日本大震災による福島原発事故は、原子力発電のおそろしさを見せつけてくれました。放射能の影響は今も深刻な状況です。それだからこそ、「サンサンと降りそそぐ太陽の光をエネルギーに」と考える人がもっと増えて欲しいと思います。

●生ごみ処理機



温風乾燥式生ゴミ処理機

小金井市にはゴミ処分場がないため、早くからゴミが有料化され、生ごみ処理機の普及に力を入れています。わが家の生ごみ処理機「リサイクラー」は、温風乾燥式。生ゴミ（野菜や果物の皮など）に約130度の温風をあて、しっかり除菌しながら約5分の1程度に圧縮して肥料にするもので、大体、1日1回位、動かしています。

容器にある程度、たまったところで、庭や植木鉢に撒いています。有機肥料なので、夏にはバツヤやカマキリも見かけるし、ふかふかの黒い良い土になっているように思われます。

自宅で利用しない場合は、小金井市内の指定場所に持ち込めば、市内の公園や街路樹等で活用してくれます。

●雨水貯留

東京では以前、水不足が叫ばれ、雨水を貯留しようという動きがありましたが、利根大堰の完成などで水不足が解消されると、いつの間にか、関心が薄れてしまったようです。

わが家では雨水タンクを2基（50リットル×2）設置し、植木鉢の水やりや散水に利用しています。雨水タンクは屋根の水を雨どいにつなぐ簡単なもの。水道水に含まれるカルキ等の無い自然水なので、植木や花が元気になるようです。

毎年、台風シーズンになると各地で停電や断水などが発生して大騒ぎになります。防災用に飲料水のペットボトル等を備蓄している方も多いと思いますが、雨水タンクがあればトイレ用として1～2日位は、しのげるように思います。

水と緑と土、それに太陽…、もともと、人間は自然と共存していた筈です。まず、身近に出来ることから、始めたことでした。



50リットル雨水貯留槽



編集後記

本年初も年初から新型コロナウイルスによる第8派パンデミックが猛威を振るっており、残念ながら我々の活動は大きな制限を受けています。それでも手をこまねいているわけにはいきません。

今回は、NPO法人に所属して活動している会員、長年にわたる児童への環境教育に携わる会員、自宅に各種の環境対応設備を設置している会員、3名の活動例を紹介しました。

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 理事長 井田 秀明
TEL：042-652-3726
連絡メール：mecc-home@mecc.or.jp
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
編集者：川真田 直之